

ポスドク研究者、大学院博士後期課程学生等国際学会派遣プログラム	
<i>Fujoshi</i> s “BL Fantasy” in Taiwan: From the Contextual Perspective of Japanophilia.	
氏名 張 瑋容	所属 ジェンダー学際研究専攻
期間	2015 年 8 月 6 日～ 2015 年 8 月 9 日
学会・分科会名	International Conference 2015 of the Inter-Asia Cultural Studies Society Parallel Session 8: Exploring the Potentials and Paradoxes of Chinese Queer Fan Cultures: A Fannish Palimpsest of Gender, Sexuality, Desire, and Fantasy.
場所	Airlangga University, Surabaya, Indonesia
発表者名、発表形式	Wei-Jung CHANG 口頭発表

内容報告

1. 学会・分科会の概要

Inter-Asia Cultural Studies Society はアジア文化研究の統合を目的として 2004 年に設立された国際学会であり、2007 年から同学会が二年一度で開催する国際カンファレンスに世界各国の研究者が集まり、アジア文化研究の動向を交流する貴重な拠点となっている。同学会の学会誌“Inter-Asia Cultural Studies: Movements”は若手研究者ならではの研究視座を提示し、国際的な学術交流を促進する役割を担う重要なメディアとして注目されている。

同学会の 2015 年度大会テーマは“Undercurrents: Unearthing Hidden Social and Discursive Practices”であり、日常生活の実態の構成に隠れる社会的・文化的要素を前面化する研究を求めている。今回の大会で、60 組以上の分科会、及びアジア各国の先鋭的な研究者によるスピーチが開催された。その中で、アジアのカルチュラル・スタディーズ領域におけるセクシュアリティ研究の重要な位置づけが反映されている。開会式では、女性ダンサーによる伝統舞踏のパフォーマンス以外に、トランスジェンダーのダンサーとシンガーのパフォーマンスもあった。さらに、「クイア」や「セクシュアリティ」をテーマとする分科会がおよそ八つあり、アジア諸国におけるセクシュアル・マイノリティの人権運動の展開、クイア・スタディーズの視点によるメディア研究など多様なテーマが挙げられる。とりわけ今回の大会にクイア・スタディーズが集中していることは、文化・社会に秘められているジェンダーとセクシュアリティの秩序を可視化させ、変革させる可能性を見いだそうとする研究動向を意味する。その中で、私が参加する分科会“Exploring the Potentials and Paradoxes of Chinese Queer Fan Cultures: A Fannish Palimpsest of Gender, Sexuality, Desire, and Fantasy”は、アジアのファン文化の特質をそこに潜在するジェンダー、セクシュアリティ、欲望、ファンタジーの観点から解明することを目的とする。

2. 発表内容の概要と意義

本分科会は来年出版予定の中華圏ファン文化に関する英語論文集“Queer Fan Cultures in Mainland China, Hong Kong, and Taiwan”（仮）の内容紹介に基づいたものである。編者と一部の著者はそれぞれ中国の武侠ドラマのトランスジェンダーのキャラクターをめぐるファンの言説、アメリカンのレズビアンドラマに出演した中性的な女優を中心とする中国人女性ファンコミュニティ、及び台湾の腐女子¹文化について発表した。

本発表は現代台湾に定着している「腐女子」文化に着目し、その核心を成す「BL(Boy's Love)的妄想」はどのように 90 年代後半から台湾で継続する日本のポピュラーカルチャーの好意的な受容・消費現象である「哈日(ハーリー)現象」の複合的文脈と関係するかを分析することを目的とする。研究方法として、台湾人腐女子計 12 名に対するインタビュー調査を行った。

報告者はまずは哈日現象の背景と展開を明らかにした上で、哈日現象の形成に重要な位置を占める「日本」(Japaneseness)²の消費、所有と流用を指摘した。この指摘を踏まえ、報告者はさらに台湾人腐女子文

化を哈日現象の文脈に位置づけ、彼女らの文化実践、つまり「BL 的妄想」³の構築過程における＜日本＞の存在に注目した。彼女らは親密性(intimacy)の理想図を日本の BL 作品に表現される男同士の絆に投影しながら「BL 的妄想」を楽しむ一方で、日常生活において常に＜日本＞を消費している。このような彼女らの実践から、＜日本＞は常に彼女らに欲望されていると同時に、彼女らの妄想と快楽を刺激する役割も果たしている、といった台湾腐女子文化の特徴が明示された。＜日本＞が台湾人腐女子文化においてこのように位置づけられる背景として、植民地期の歴史へのノスタルジックな記憶、戦後の中国との政治的関係、及び近代化への渴望から醸成された＜日本＞に対する集合的な渴望という親日な社会構造が挙げられる。結論として、台湾人腐女子文化を＜日本＞をめぐる集合的欲望が核心を占める哈日現象の文脈に位置づけて分析することで、＜日本＞は台湾人腐女子の親密性への欲望を刺激する役割を果たしているという現代台湾のポピュラーカルチャーと、日台間の歴史的、政治的、社会的背景との深い関係を指摘した。

本分科会の元となる論文集にも収録される台湾人腐女子文化研究の論文著者も聴衆として来場し、報告者と台湾人腐女子文化における＜日本＞の位置づけについて議論した。報告者は台湾人腐女子文化の形成の構造的要因として、台湾の親日傾向の歴史的な文脈、及び現在の日台間の文化交流の現状を指摘したとともに、この事例を通じて東アジアを中心とするポピュラーカルチャーの受容と交流に深く根付いている歴史と政治性を指摘することで、アジア文化をめぐる議論を深めることができた。

今回の学会発表と論文集出版に携わることを通じて、中国、香港、台湾、日本の研究成果を把握、共有することができた。とりわけ、本分科会を契機に中国と香港の若手女性研究者たちと直接交流することから、彼女らが国際的な学术交流の場で積極的に発信し続ける姿勢を見習った。論文執筆と発表のみならず、書籍の編集、分科会の構成などの経験が、学術研究の場を基盤とする国際的な女性リーダーの育成にとって貴重な機会となった。

4. 自分の研究における位置づけ

本発表は台湾人腐女子の事例を通じて、台湾の哈日現象と親日背景を分析した。博士論文の第一章では親日の社会構造を醸成した背景を整理し、第二章では哈日現象の登場、展開と変容を考察する。第三章と第四章では哈日現象を代表する消費地域で行ったフィールドワークを記述し、第五章では哈日族の若者たちのライフストーリーを述べる。以上を踏まえ、第六章では＜日本＞をめぐる集合的欲望の形を意味を総合的に分析する。したがって、本発表の内容は博士論文の第一、第二、第五と第六章の一部に当たる。博士論文では、腐女子を含む多様な哈日族に対してライフストーリー調査を行うため、それぞれのタイプの哈日族の＜日本＞の消費と欲望構築がどのように共有されるのか、それはどのような現代社会の時代的特徴を反映しているのかを分析する。したがって、今回の発表で、台湾人腐女子文化を哈日現象に位置づけて論じたという試みは、哈日現象の構造的意義の分析に活用できる研究成果として位置づけられる。

注

1. 腐女子とは、BL・やおいなど男性同士の恋愛を扱った作品の愛好者を指す自嘲的呼称を指している。
2. 本発表で使われた「Japaneseness」という語彙を＜日本＞と訳す。これは日本のイメージを表象する、または人々に日本のイメージを想起させる記号を指している。
3. 「BL 的妄想」とは、腐女子が男同士の親密な関係性をめぐる想像・妄想、及びそれらをめぐる言説、創作、消費などを指している。

参考文献

- 上野千鶴子 (2002) 『発情装置』筑摩書房。
- 金田淳子 (2007) 「やおい論、明日のためにその 2」『ユリイカ 2007 年 12 月臨時増刊号：総特集 BL スタディーズ』青土社, 48-54.
- 黄智慧 (2010) 「ポストコロニアル台湾における重層構造——日本と中華」西川潤・蕭新煌編『東アジア新時代の日本と台湾』明石書店, 159-193.
- 蔡錦堂 (2006) 水口拓寿訳「日本統治時代と国民党統治時代に跨って生きた台湾人の日本観」五十嵐真子・三尾裕子編『戦後台湾における〈日本〉——植民地経験の連続・変貌・利用』風響社, 19-60.
- 張瑋容 (2013) 「「執事喫茶」における「BL 的妄想」とセクシュアリティ——台湾人腐女子の「妄想実践」事例から」『人間文化創成科学論叢』15, 291-299.
- (2014) 「一人の「哈日族」女性のライフストーリーにみる〈日本〉との関係性のあり方」『日本オーラル・ヒストリー研究』10, 77-98.
- 陳怡禎 (2014) 『台湾ジャニーズファン研究』青弓社。
- 陳培豐 (2001) 『「同化」の同床異夢——日本統治下臺灣の國語教育政策の再考』三元社。

- 堀江俊一 (2006) 「二つの『日本』——客家民系を中心とする台湾人の『日本意識』」 五十嵐真子・三尾裕子編『戦後台湾における〈日本〉——植民地経験の連続・変貌・利用』風響社, 121-154.
- 松下慶太 (2008) 「台湾における日本メディア文化の普及と「日本イメージ」の形成」『目白大学 人文学研究』4, 121-134.
- 李衣雲 (2005) 「実像と虚像の衝突——戦後台湾における日本イメージの再上昇の意味、1945-1949——」『東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究』69, 137-159.
- (2006), 「台湾における日本恋愛ドラマと日本イメージの関係について」『マス・コミュニケーション研究』69, 108-125.
- Chang, W.J. (2015) “Gendered/Sexualized Transformation of Japanophilia: The Symbolization and the Localization of ‘Japaneseness’ in Taiwan.” Paper presented at the annual meeting for the North America Taiwan Studies Association, Boston, Harvard University, June 12-13.
- Galbraith, W. P. (2011) “Fantasy Play and Transgressive Intimacy among ‘Rotten Girls’ in Contemporary Japan,” *Signs*, 37(1), 211-32.
- Giddens, A. (1992) *The Transformation of Intimacy*. California: Stanford University Press.
- Iwabuchi K. (2002) *Recentring Globalization: Popular Culture and Japanese Transnationalism*. Durham and London: Duke University Press.
- Ko Y.F. (2004) “The Desired Form: Japanese Idol Dramas in Taiwan.” In *Feeling Asian Modernities: Transnational Consumption of Japanese TV Dramas*, edited by Kōichi Iwabuchi, Hong Kong: Hong Kong University Press, 107-128.
- Martin F. (2012) “Girls Who Love Boys’ Love: Japanese Homoerotic Manga as trans-National Taiwan Culture.” *Inter-Asia Cultural Studies* 13, 3, 365-83.
- Nagaike K. (2003) “Perverse Sexualities, Perverse Desires: Representation of Female Fantasies and Yaoi Manga as Pornography Directed at Women.” *U.S.-Japan Women’s Journal*, 2003, 76-103.
- Nagaike, K. and Aoyama, T. (2015) “What is Japanese ‘BL Studeis’? A Historical and Analytical Overview.” In *Boys Love Manga and Beyond: History, Culture, and Community in Japan*, edited by McLelland, M., Nagaike, K., Suganuma, K. and Walker, J., Mississippi, University Press of Mississippi, 119-140.
- Silvio, T. (20213) “BL/Q: The Aesthetics of Pili Puppetry Fan Fiction.” In *Popular Culture in Taiwan: Charismatic Modernity*, edited by Moskowitz, M. L., London: Routledge, 149-166.
- 李明璁 (2004) 「『親日』的情感結構、與『哈日』の主體——一個跨時代認同政治的考察」, 台灣社會學年會 2004 年會暨討論會論文.
- 李姿瑤 (2004) 「『動漫』御宅族的幻想世界——以台灣的同人創演活動為研究對象」輔仁大學大眾傳播學研究所碩士論文.
- 許佩賢 (2012) 『太陽旗下的魔法學校——日治台灣新式教育的誕生』東村出版.
- 張詩芸 (2006) 『次文化經濟能量之展現：論台灣同人誌的在地變遷』國立臺灣師範大學大眾傳播研究所碩士論文
- 張瑋容 (2013) 「從「BL 妄想」看另類情慾建構：以台灣腐女在「執事喫茶」中的妄想實踐為例」『女學學誌：婦女與性別研究』3, 97-133.
- 劉品志 (2014) 「『腐女』的幻想與望／妄想」國立高雄師範大學性別教育研究所修士論文.
- 蔡芝蘭 (2010) 『女性幻想國度中的純粹愛情——論臺灣 BL 小說』國立臺灣師範大學國文學系修士論文.

ちょう いよう／お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ジェンダー学際研究専攻

- ・ *Fujoshi’s* “BL Fantasy” in Taiwan: From the Contextual Perspective of Japanophilia.
- ・ Wei-Jung CHANG